

ARTISTS & CREATORS INFORMATION

2020
SPRING-AUTUMN

SOCIAL

須賀川市民交流センター tette の整備・運営支援
※生ビル アカデミック・リソース・ガイド株式会社



泰生ビルに入居するアカデミック・リソース・ガイド株式会社 (arg) が整備・運営支援を担当した、福島県の「須賀川市民交流センター tette」。オープンから1年が経過した同館は、日経BP「まちのチカラを引き出した PPP アワード 2020」で賑わいづくり賞を受賞するなど、公民連携の新たなカタチとして注目を集めています。

プロデュース物件がテレビで紹介!

トキワビル FURIKIRI



トキワビル 307号室にオフィスを構える、不動産会社の FURIKIRI。同社がプロデュースした物件が、2020年9月19日にTBS系列『王様のブランチ』で取り上げられました。「デザイン性と機能美の充実」をコンセプトにした物件で、現場での撮影は3時間を超える熱のこもったものだったとか。物件プロデュースや不動産投資について検討されている方は、ぜひお気軽にご相談ください。

ART

ゆたかなイばしょ

※生ビル 似て非 works



泰生ビルに入居する、稲吉穂さんと渡辺梓さんの「似て非 works」。「そこならではのモノやコトと出会い、予想外に変換する」という意味で名付けられ、横浜の古い建築物のアトリノベーションを多く手がけています。「ゆたかなイばしょ」は、地域に集う子どもたちとともに「移動するコミュニティ」を生み出すプロジェクトです。



ゆたかなイばしょ

ARCHITECTURE

トートアーキテクト LAB

※シンコービル 安田智紀



写真：加藤南

安田智紀さんが代表を務める建築事務所「トートアーキテクト LAB」。いくつか泰有社物件を移転し、2020年3月にシンコービルに入居しました。これまで住宅やホテル、ギャラリーなどさまざまな案件を手がけ、「気に入ったものを長く使うデザイン」を心がけているという安田さん。事務所では今後、建物の模型の展示なども予定しています。



写真：矢野紀行

TOWN

明蓬館高校
横浜・関内 SNEC (すねっく)

※生ビル



「明蓬館高等学校 横浜・関内 SNEC」は、これまで不登校だった生徒や、発達の特徴を持つ生徒が通う通信制高校。関内には3つの拠点があり、古市久美子さん設計の教室では、この街だからこそできるアート・クリエイティブ活動を行っています。ワークショップの開催などにご協力いただける方も募集中です!

FOOD

マツモトコーヒーロースターズ

※生ビル 松本祥孝



泰生ポーチに拠点を置くカメラマン・コーヒーロースターの松本さん。201号室に、写真事務所兼コーヒー豆焙煎工房を構えています。部屋の一角には本格的な焙煎機があり、コーヒーの飲み比べや、焙煎ワークショップなども開催。最新情報は Instagram (@lazy_old_sun) をチェック。

HEALTH

RAKUYOGA

※シンコービル 吉村郁子



フリーのヨガ講師として、白楽とシンコービルを拠点に活動する吉村さん。コロナ禍で大きな影響を受けましたが、生徒さんたちがヨガの習慣を失わないよう、双方向のコミュニケーションを重視して Zoom を用いたレッスンを行ってきました。最近は旅先から配信することもあるという吉村さんは、「オンラインレッスンでは、声がとどくことや、配信する部屋の雰囲気も重要ですよ」と語ります。レッスン情報は「ikukoyoga」で検索!



ピクニックルーム 地域の親子に安心を

※生ビル

泰生ビル5階の保育園「ピクニックナーサリー」が2017年11月に開所して丸3年。この度当初からの507号室に加えて502号室も改装し、2部屋に増床した。同園に加え、放課後児童学習支援事業、子育てサロンという3つの事業を束ねるのが、株式会社ピクニックルーム代表の後藤清子(ごとう・きよこ)さんだ。木のぬくもりを生かした部屋に通うのは、現在0歳~3歳のあわせて12名の園児。その保護者のうち約半数が、近隣のデザイン会社などで働くクリエイターだ。「最初は半年くらいやってみて様子を見ようと思っていましたが、ニーズはものすごくあることが分かりました。関内エリアにはフランクに関わることができる民間の子育て事業が少ないので、どういう形で運営できる

かを考えていました」。

保育園の空間をつくるにあたりブレインとなってくれたのが、当時さくらWORKS(関内)に籍を置いていた建築家・古市久美子さん(現在はトキワビル/シンコービルに移転)。泰生ビル3階に入居する一級建築士秋山怜史さんや、似て非worksの稲吉穂さんにも相談に乗ってもらった。人と人との間に入り物事の可能性を広げていく制作の経験を、子育て支援という形で最大限に生かしている後藤さん。「子どもであれば生後10日でも22歳でも相談は全て受けるというスタンスです。学校の選び方に悩んでいる子も、居場所がないハイティーンの子も、働きたいけど難しいと悩んでいる子も相談できる所がある。この境界の力を使って、関わる子どもたちや親御さんたちの気持ちの安寧を保証していきたい」。関内エリアで最も頼もしいクリエイターの一人だ。

全文はWEBで



取材・文：齊藤真菜／写真：加藤南／編集：白尾芽 (voids)

オーナーズアイ
Owner's Eye
株式会社泰有社
伊藤康文 × 水谷浩士

今回のオーナーズアイは Zoom で収録。
2020年のできごとを振り返ります!

伊藤 弊社のビルでは退去された方もいましたが、みなさんの協力のおかげで、すぐ次の入居者が決まるケースが多かったです。アーティストの入居が多く、同じビル内での増床も相次ぎました。泰生ポーチの一室には、これから鍼灸師の方も入る予定ですよ。この状況でもアーティストやクリエイターが集う環境が継続できているのはありがたいですね。

編集部 入居者同士のコミュニケーションもオンラインで行われることが多くなりました。今年の「関内外 OPEN! 12」はオンラインで開催されています。

伊藤 同じコミュニティにいる人同士、意見交換をするのはとても大事だと思います。オンラインのツール

水谷 これまでは通勤電車から休日まで、たくさんの方が一緒に動きまわっていました。しかしコロナ禍で大企業でもリモートワークが導入され、意外な快速に、改めて個人事業主や中小企業で働くことを視野に入れた人も多くなりました。今年の「関内外 OPEN! 12」ではさまざまな生活と仕事の間見え、新しい時代に向けて役立つ企画だったと思います。

編集部 おふたりの習慣や働き方に変化はありましたか?

水谷 仕事の効率について考えるようになり、またね。Zoomなどのツールによって、打ち合わせでも、実際に会うために移動の時間や費用をかける必要はなくなりました。ただその反面、人と会えないという寂しさもあります。

編集部 これからのオーナー業は、どのように変化するのでしょうか? 2021年の抱負があればお願いします。

伊藤 変化する働き方やライフスタイルにあわせて、貸す側としては、まずその人がやりたいことにあわせて柔軟な対応をしていくことが大事だと思います。そのためには何より人との関係を大切に、お互いにじっくり相談して決めていく。既成概念を取り払って、同じ方向を向いている人たちと一緒にビルをつくりたいと思っています。

水谷 これからは、小さいながらも個性を生かした働き方が増え、個の時代になるでしょう。大家としては、そういう方々のお役に立てるような不動産・建物で答えていきたいですね。

生活の1コマをイラストで。
vol.3は泰生ビルに入居する「似て非works」の稲吉穂さん。



ある日、夢を見たまま描いてみた。子供のころ通った駄菓子屋さんのジジババだ。何故おじいさんがカーレーを袖で拭くのかは謎でも、今なお、働くおばあさんの白い腕に心奪われていると、ふと気づく。(稲吉穂) ※生ビル

トナリノクリエイター

最近の仕事や考えていることをつなぐレギュラー

泰生ポーチに入居している照明デザイン事務所Mantle Inc.の久保(写真中)です。204は事務所、404は主に実験などを行う場所として使用しています。照明デザイナーという、華美で演出的な光をデザインする仕事と思われがちですが、私たちが取り組んでいるのは、“みたこともないような日常の光”をデザインすることだと考えています。

関わるプロジェクトは、小規模な住宅から、ホテルや結婚式場など大規模な施設の照明デザインまでさまざまですが、どこをどのように照らすかということや、微妙な明るさの違いで、何度訪れても「この場所いいね」って思ってもらえるような日常の光をデザインするように努めています。最近では、藤沢市の白旗神社という歴史ある神社の参道をライトアップしました。決して演出的ではなく、厳かであることを意識した日常の光です。そして泰生ポーチには約3年半の期間入居していましたが、この2月に退居することになりました。照明器具などの物も増えていよいよ手狭になってしまったのですが、この場所だからこそできた人のつながりがあったり、共有部では別の入居者とすれ違いざまに何気ない会話をすることが楽しかったり、人それぞれに魅力を感じる場所だと思っています。これから私たちは別の場所に移りますが、さらなる新しい日常の光をつくり出していきたいと思っています。

久保隆文(クボ・タカフミ)/照明デザイナー。武蔵工業大学大学院修了後大成建設(株)、(株)Lighting Planners Associatesを経て2018年に(株)Mantleを設立。2019年、照明学会照明デザイン賞審査員特別賞を受賞。

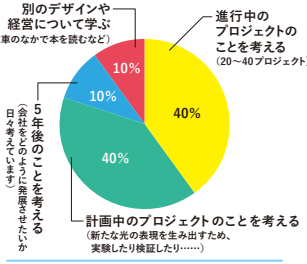
久保隆文さん
(Mantle Inc.)

※生ビル



白旗神社参道のライトアップ

こんなことを考えています



TAIYUSHA
NEWS

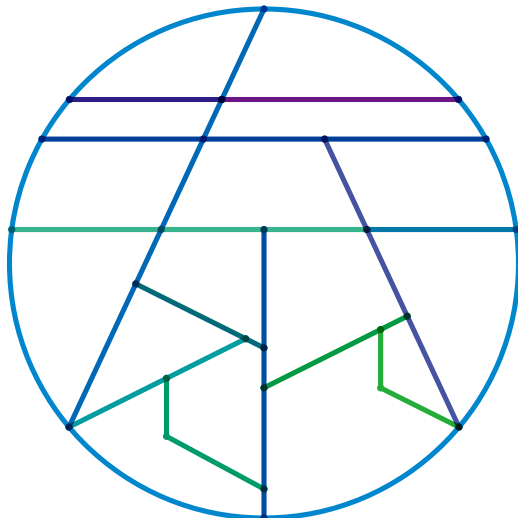
街の未来を考える

http://taiyusha.co.jp/

泰有通信 vol. 04

2020, Spring - Autumn

泰有社が発行する創造拠点の最新ニュース



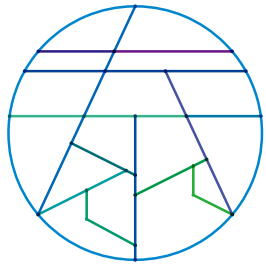
私たちは不動産事業をとおして、コミュニティを育むまちづくりに取り組んできました。泰有通信は半期ごとに、入居アーティスト・クリエイターの活動を紹介しています。

今回の特集は、「アフターコロナのためのメールインタビュー」。緊急事態宣言下だからこそ残せたクリエイターたちの言葉を、抜粋してお届けします。全文はWEBサイトで!

また、関内・弘明寺の各拠点の特徴を、それぞれのビルに入居する建築系のクリエイターによるイラストとともにご紹介。

そのほかには、同じビル内に増床した入居者へのインタビューや、これからの働き方・暮らし方を考える「Owner's Eye」をお届けします。

さまざまな制約のなか、2021年ほどのような動きが生まれていくのでしょうか。2020年の活動を振り返る「泰有通信」をご覧ください!



街の未来を考える、 クリエイターたちの拠点紹介

全文は
WEBで

私たちは不動産事業をととしてコミュニティを育むまちづくりを目指し、
入居アーティスト／クリエイターとともにさまざまな活動に取り組んできました。
建築系のクリエイターによる各拠点のイラストと、その特徴をご紹介します。



泰生ビル

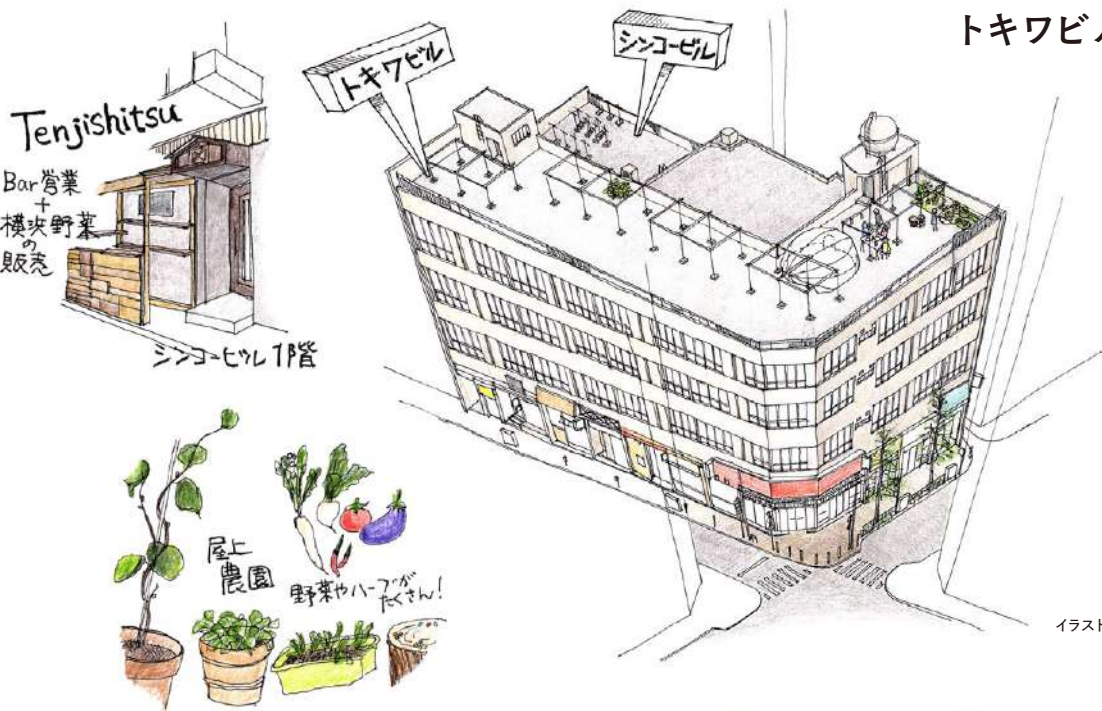
全拠点の「顔」とも称される泰生ビル。シェアオフィスとコミュニティスペースからなる「さくらWORKS〈関内〉」のオープンを機に、アーティスト・クリエイターが集結しました。保育園「ピクニックナーサリー」やジャム工房「旅するコンフィチュール」など、入居者の業種はさまざま。屋上・壁面では緑化も実施されています。



泰生ポーチ

「small is better」がスローガンの泰生ポーチ。カメラにかかわるクリエイターのほか、編集者などが入居しています。関内桜通りに面した1階の「泰生ポーチ フロント」は、コッペパン専門店「パン屋のオヤジ」の出張店舗や、小学生放課後事業「ピクニックスクール」のためのシェアスペースとして運営されています。

イラスト(2点)： **泰生ビル** 株式会社オンデザインパートナーズ 大西末紗



トキワビル／シンコービル

アーティスト・クリエイターの「次の一步」をサポートするトキワビル／シンコービル。リノベーションも自由に行えるため、とりわけ建築家の入居が多いのが特徴です。入居者による「自治会」の活動も盛んで、これまで「ドアを塗るプロジェクト」や「屋上農業分科会」などを実現してきました。

イラスト： **トキワビル** イシマル建築設計室 石丸由美子

弘明寺

関内だけでなく、弘明寺エリアにも複数の拠点があります。2018年には若手建築家らが入居するシェアハウス「水谷基地」、翌19年には商店街に「アキナイガーデン」がオープンしました。「アキナイガーデン」は、高い暮らしをテーマに、小商いスペースとして場所を貸し出すシェア店舗。弘明寺から新たなライフスタイルを発信しています。



イラスト： **水谷ビル** アキナイガーデン 神永侑子

先の見えないなか、余白が出来て思考する時間が増えたにも関わらず、
行動に制限があるので、つい億劫になりがちですが、
小さくても行動すること、トライ&エラーを続けることを大切にしています。

—新型コロナウイルスとともに生きていくうえで、工夫していること、心がけていること、大切にしている心構えなどがあれば教えてください。

岡部祥司(おかべ・しょうじ) **泰生ポーチ**

NPO法人ハマのトウダイ共同代表／株式会社スキマデパート 取締役／株式会社アップテラス 代表取締役／株式会社スノーピークビジネスソリューションズ エヴァンジェリスト



わかりあえないものがともに在る社会。
そんな社会においてアートやデザインによる
体験的な共感が意味を持つのだと思います。

—コロナ禍が「落ち着いた」あと、どのような社会になってほしいですか？ 近い未来に向けて、希望があれば教えてください。

李明喜(り・みよんひ) **泰生ビル**
アカデミック・リソース・ガイド株式会社(arg) 取締役 CDO

物理的な解決方法はウイルスを知ることで一般化されていくと思います。
それよりも、人と人との関係性をどのように再定義するかを考えたいと思っています。
人と人との温かみのある交流を無くして、人が生きていけるか疑問なのです。

—アーティスト・クリエイターとして、いま、どのような表現／活動をしたいと思いますか？ その理由も教えてください。

浅沼秀治(あさぬま・ひではる) **トキワビル**

建築家／Team ZOO アトリエモビル 代表取締役／NPO有形デザイン機構 副理事長



いままでの生活様式を「急に変えない」という事です。
変えなきゃいけないところは、今後自ずと分かってくるので、
その時間のなかで意識して少しずつ変えていく努力はしますが。

—新型コロナウイルスとともに生きていくうえで、工夫していること、心がけていること、大切にしている心構えなどがあれば教えてください。

松本祥孝(まつもと・よしとか) **泰生ポーチ**
カメラマン／有限会社マツト 取締役／マツモトコーヒーロースターズ

写真：加藤甫

リアルに集まることの価値と、オンラインでも繋がれることの価値をあわせていくと、
これまで「こういうものだ」と思われていた空間も変わっていくのではないかと
いうことを考えています。新しい場と空間の価値を提案していきたいです。

—アーティスト・クリエイターとして、いま、どのような表現／活動をしたいと思いますか？ その理由も教えてください。

大沢雄城(おおさわ・ゆうき) **泰生ビル**

オンデザインパートナーズ



想像力を失わない社会。対立のあるところには、争いではなく、
これまでの方法を塗り替えていく発想の転換やアイデア、他者に対する思いやりによって、
解決策を見出していくことのできる社会になってほしいし、目指したいと思います。

—コロナ禍が「落ち着いた」あと、どのような社会になってほしいですか？ 近い未来に向けて、希望があれば教えてください。

及位友美(のぞき・ゆみ) **トキワビル**

株式会社ボイズ ディレクター、編集・執筆



旅するコンフィチュール



旅するコンフィチュール **泰生ポーチ**

営業時間：火水金土 12:00-18:00／木 12:00-19:00

定休日：日月祝

オンラインストア：http://shop.tabisuru-conf.jp

取材・文：佐藤恵美／写真：加藤甫／編集：白尾芽(voids)

全文は
WEBで

真向かいのビルに移転し、新たなスタートへ

2020年秋、遠光美(ちがひ・かつみ)さんによる季節のジャムと焼き菓子の店「旅するコンフィチュール」が、泰生ポーチに移転オープンした。

真向かいの泰生ビルで工房をスタートしてから7年。遠さんのコンフィチュールは順調に旅を続けて来たが、今年の春は即先の商業施設が軒並み休業に。緊急事態宣言があけて各地の営業は再開したが、すぐに元の売り上げには戻らなかった。「外部の売り上げに頼っていたらつぶれてしまう。自社での販売に力をいれなくては」。そう考えた遠さんは自社サイトの通販に力を入れていく。これまで一部屋で店舗、製造、配送のすべての機能を集約していたが、配送専門の部屋を新たに探すため、泰有社に相談。すると、ちょうど泰生ポーチの2階に小さな部屋があった。新しい店舗の内装設計は、ロゴをはじめ「旅するコンフィチュール」のアートディレクションを2013年当初から担当するデザイナーの天野和俊さんと、建築家の加藤直樹さんが



手がけた。店舗の照明に悩んでいたら、泰生ポーチの同階に入居する照明デザイナーの久保隆文さんがアドバイスをくれた。「この場所で、これからも人の心を動かすものをつくってきたい」と話す遠さん。「各地の生産者さんから食材がうちにやってきて、コンフィチュールになり、お客様のところへ旅をする。その意味でも「旅」がキーワードになっています」。装いも新たな店舗から、これからもコンフィチュールの旅は続いていく。

TABISURU-CONFITURE

STAY HOME,
KEEP THINKING



アフターコロナのためのメールインタビュー



2020年、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、誰もがいつもの活動や生活にさまざまな影響を受けました。入居クリエイターたちは、コロナ禍のなかで何を考えたのでしょうか。その言葉を抜粋して紹介します。